

2021 年度 蘇遙会情報誌

熊本大学工学部 土木建築学科土木教室 蘇遙会

2021 年 9 月 1 日発行

熊本城復活 天守閣復旧完了 (写真提供:熊本城総合事務所)



〔発行〕

蘇遙会事務局

〒860-8555

熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 - 1

熊本大学工学部土木建築学科

土木教室内

水曜と金曜 10:00~16:00 (曜日が変わりました)

Tel: 096(342)3544

Fax: 096(342)3507

E-mail soyukai@kumamoto-u.ac.jp

HP <https://www.web-dousoukai.com/soyukai/>

- ・設立十五年を迎える熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組」の活動
- ・ご挨拶 山尾 敏孝 会長、辻本 剛三 土木建築学科長
- ・寄稿 S35 年卒 倉原 良民 氏、S45 年卒 藤芳 素生 氏、S60 年卒 福岡 正秀 氏、H2 年卒 益田 康一 氏、H12 年卒 増田 敦彦 氏、H12 年卒 石原口 一人 氏
- ・退任挨拶 大本 照憲 先生、溝上 章志 先生
- ・土木系教室情報 教職員紹介、新任挨拶、ほか
- ・蘇遙会学生部 コンセプト、歓迎会実施報告、ひとこと

設立十五年を迎える熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組」の活動

熊助組 顧問 竹内裕希子

熊本大学学生災害復旧支援団体「熊助組(くますけぐみ)」は、学生による社会貢献と防災意識の向上を目的に2007年6月25日に熊本大学工学部社会環境工学科の学生によって設立された災害ボランティアサークルで、今年度設立15年目を迎えます。2015年度に熊本大学工学部公認サークルとなり、現在は約100名の学部生・大学院生が活動しています。

熊助組が最初に災害復旧支援を行ったのは2007年の組織発足直後でした。この年の7月6日から7日に熊本県内の宇城、八代、上益城を中心とした地域で土砂災害や浸水被害が発生しました。熊助組は土砂災害で道路が寸断し集落が孤立するなどの被害が発生した美里町で、排水路の設置・土砂撤去・家財の運び出し・支援物資の搬入等のボランティア活動に10日間にわたり延べ19名の学生が従事しました。

2007年の美里町での活動後、熊本県が実施する防災土養成講座「火の国ぼうさい塾」などの防災セミナーや熊本県や熊本市が実施する防災訓練に積極的に参加するだけでなく、避難所運営ゲームHUGや災害図上訓練DIG、クロスロードゲーム、タイムラインなどを用いた勉強会を実施し、学びを積み重ねてきました。これらの活動を継続していく中で、熊本県や熊本市、社会福祉協議会などの機関と関係を構築し、2012年九州北部豪雨災害や平成28年熊本地震では災害現場での復旧支援活動、仮設住宅でのコミュニティ再生支援活動を行ってきました。

昨年発生した令和2年7月豪雨災害はコロナ禍における初めての災害であり、大学の対応やPCR検査の受検などこれまでの熊助組の経験とは異なる事柄に戸惑いながらも、学生達は議論を重ね準備を行い人吉市における泥かきボランティアや熊本市内における写真洗浄ボランティアにのべ110名が参加しました。これらの活動は、現在でも継続されています。熊助組は年度によって変動がありますが10名程度の幹部学生を中心に計画立案、安全確保、日程調整、予算確保・管理、後輩育成

に取り組んでいます。その活動は常に自発的・能動的であり、顧問の存在を不要とするものです。

昨年度は令和2年7月豪雨災害での活動だけでなくこのような自律的な運営体制が評価され、学長表彰と工学部西田誠賞を受賞させていただきました。このような活動を行うことができたこと並びに高い評価をいただけたことは、熊助組の努力だけでなく、卒業生等が積み重ねたこれまでの学び、卒業生からの助言、学内外からの多額のご寄付、土木系教職員の皆様のご理解によります。心より感謝しております。

設立15年を迎えた熊助組が、今後も活動を継続していくことができるよう、引き続き皆様のご支援・ご理解をお願い申し上げます。

右:美里町でのボランティア活動
(2007年)



上:熊本県防災訓練へ参加
(2014年8月31日)



上:益城町櫛島仮設団地での傾聴活動
(2018年1月20日)



左:人吉市での泥出し作業
(2020年9月20日)

ご挨拶

蘇遙会会長 山尾 敏孝

蘇遙会会員の皆様、コロナの収束が見えない中、また蒸し暑い季節となりましたが、お変わりありませんか。今年の梅雨入りは過去 2 番目に早い 5 月中旬となり、入るや否や熊本地方が大雨に見舞われ驚きました。これでは梅雨明けまでどんな大雨に襲われるかと思うと気が減りましたが、その後は結構長い中休みがありました。今年は早く梅雨入りしたので梅雨明けはきっと早いだろうと勝手に思っていたら、例年と変わらないとの気象庁の予報に少々がっかりです。

新型コロナウィルスは、より強い感染力を持つ変異株が発生し、一向に収まる気配はないようです。この感染拡大を食い止める方策がワクチン接種ということで、5 月の連休後にやっと高齢者を対象に接種が始まり、続いて集団接種や職域接種も開始されました。さらに、一年延期された東京オリンピックとパラリンピックも開催の賛否を抱えながら実施されることになりました。このような世界的なスポーツ祭典は、できれば皆さんのが喜んで、安心・安全の中で開催され、選ばれた選手も多くの観戦者の中で持てる力を十分発揮して競技できたらと思うと非常に残念なオリンピックです。

大学等ではオンライン授業が中心であり、対面授業がいつから全面的に再開されるか定かではありません。特に、人ととのコミュニケーションの視点からみると、コロナウィルスは大きな課題を我々に突きつけたように思います。確かにデジタル化や情報の一元化、ICT 化が促進されたことは評価されますが、その反面、教職員と学生、学生同士の情報共有がほとんどなくなっている状況です。これは、現役のみならず卒業生の先輩方と教員、あるいは学生間も同様です。一緒に食べながら懇談し、意見交換する機会が皆無になり、各地で開催されていました同窓会がほとんどできなくなったことは寂しい限りです。先輩と後輩、あるいは、卒業生と教職員との交流が一日も早く再開され、安心して楽しい語らいができる日が早く戻って欲しいものです。しかし、この辛抱をいつまで続ければよいのか全く見通しが立たないのが現状です。

今年の蘇遙会運営委員会は、昨年同様学科内ののみの開催とし、県外からの委員出席による開催は今年も残念ながら見送りことにしました。今年度の蘇遙会運営委員会は、運営委員長が辻本教授（学科代表）、教室の 2 年担任は佐藤准教授となりました。また、学生部の方も

学部 3 年の藤田知大部長、山下雅貴副部長と黒木萌唯副部長による新メンバーが決定しました。昨年は事業計画がほとんど実施できなかったようですが、今年こそは学生活発な活動を望みたいものです。コロナ感染の影響は続くようですが、もし後半に多少なりとも収まり、計画した事業が少しでも実施できるようになればと祈っています。

会員の皆様には、今年も蘇遙会活動のご支援とご協力を引き続きよろしくお願い致します。

新学科としての歩み

土木建築学科長 辻本 剛三

卒業生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことをお慶び申し上げます。また、平素より本教室へのご支援に深くお礼を申し上げます。前年度からの土木系教室長を引き続き務めさせて頂きます。

昨年度はコロナ禍の中でも、少人数化された修了式・卒業式が熊本県立劇場で挙行され、また、社会環境工学科としての最後の卒科式も簡素化して、少人数の対面と遠隔によるハイブリット形式で行い、社会環境工学科 80 名、大学院自然科学研究科前期課程社会環境工学専攻 44 名が無事に卒業してきました

今年度は 4 月 4 日に無事に入学式が挙行され、午後から入科式も行われ、土木建築学科に 128 名、博士前期課程土木工学科に 40 名、同後期課程工学専攻に 4 名の新入生を迎えることになりました。講義室の環境整備が行われ、対面と遠隔を併用する講義が開始されました。GW 明けのコロナ禍の拡大により、5 月以降昨年と同様に遠隔による講義形態が続いているです。

さて、令和 3 年 3 月末で溝上章志先生と大本照憲先生が定年退職されました。大本先生は 30 年、溝上先生は 26 年の長きにわたり本学の教育、研究に精励されました。大本先生は河川工学や水工学の分野で多数の業績を挙げられ、国土交通省や熊本県管轄の河川整備等において貢献し、特に昨年度の九州豪雨災害では学会の団長として調査を取り纏め地域の治水安全度の向上に寄与され、退職後も特任教授としてご活躍されています。一方、溝上先生は都市・交通計画を専門とし交通ネットワークの分野の業績を挙げられ、国土交通省や熊本県

2021 年度 熊本大学 蘇遙会情報誌

の都市計画審議で委員長を歴任され地域活性化貢献されました。現在は熊本学園大学の教授として教鞭をとっておられます。

藤見俊夫先生（くまもと水循環・減災教育センター）は京都大学大学院防災研究所の准教授に異動されました。大谷順先生は 4 月より全学の副学長になられ土木系教室から離れられましたが、教育・研究は継続されていらっしゃいます。

また、新しく令和 2 年 10 月に鳥取大学から准教授として金沢列先生、令和 3 年 1 月に東京工業大学から助教として安藤宏恵先生のお二人の先生がくまもと水循環・減災センターに着任されました。金先生は海岸・海洋工学、安藤先生は交通工学がご専門です。

悲しいお知らせとして、准教授葛西昭先生（享年 48 歳）が 2020 年 8 月 2 日にご逝去されました。葛西先生は 2010 年に熊本大学へ赴

出前講義

令和 3 年 2 月 1 日に出前講義がオンラインで開催されました。

例年ですと 5-6 月のインターンシップ講演会の一部として開催しますが、今年はコロナの影響で延期しておりました。

坂西由弘さん（鹿島建設）と学生代表の芦辺君が話し合いを重ね、業界説明会が終了したタイミングでざっくばらんな座談会という形式で開催してくださいました。

遠くはアメリカから 26 名もの OB・OG が講師として参加し、中には育児休暇中で子どもを抱えて画面に出てくれた人もいて、オンラインだからこそこの出前講義となりました。

学生は 3 年生と M1 合わせて 45 名ほどが参加しました。

講師として参加いただいた卒業生の方々に感謝を申し上げます。



任後、耐震・免震等について研究をされ、熊本地震後も積極的に活動されていました。2017 年 12 月に体調を崩され 1 年余りの入院・休養後、復帰に向けての準備をされておられる途上でした。先生のご冥福をお祈りいたします。

土木建築学科として 4 年目となり、新学科として土木工学・地域デザインの 2 つのプログラムが一先ず完成いたしました。両プログラムの目指す技術者像は多少異なりますが、シビルエンジニアリングであることは相違なく、人々に安全・安心な社会を提供する使命は共通です。ポストコロナ社会がどう変貌するかは未知数ですが柔軟に対応し、新たな社会を構築して頂きたいと思います。

末筆になりましたが、蘇遙会の皆様には、今後ともご指導ご鞭撻のほど、宜しくお願い申し上げます。

寄 稿

学生時代の思い出と瀬戸大橋舗装工事

土木工学科 昭和 35 年卒 倉原 良民 氏



土木工学科を卒業して 61 年経ちました。学生時代の心に残ることと言えば、吉田弥七教授がコンクリート講座授業中にいつも言わっていました「土木技術者は常に紳士であれ」という言葉です。社会に出て、現場従事中でも頭にはありましたが、反省することばかりでした。

専門課程は土質を専攻し、園田頼孝教授の薰陶を受けました。思い出すのは国道 3 号の建設省事業で軟弱地盤対策のサンドパイル工法が採用され、園田頼孝教授陣頭指揮のもと、この現場で泥まみれになりながら載荷試験などを行ってデータ分析をしたことです。

昭和 35 年 4 月に先輩の奨めで日本舗道（株）に入社しました。最初の現場は名神高速道路京都山科工区試験舗装工事でした。現場宿舎が出来る迄、小野小町が余生を送ったと言われる隋心院を宿舎として現場

へ通い、測量等の作業に従事しました。

施工では路床整正工担当でしたが、仕上げた路床に愛着を持って寝そべり、星空を見上げて将来の高速道路網を夢見ていました。

名神で3工区の舗装に従事後、昭和39年3月四国へ転勤しました。

四国支店にはこの時から3回所属し。通算20年間勤務しました。

中でも、昭和62年度（1987）に施工した瀬戸中央自動車道の南北備讃大橋橋面舗装には特に思い入れがあります。瀬戸中央道については、四国島民の悲願百年の思いが籠ったもので、昭和30年（1955）の紫雲丸事故を契機に具体化し、昭和48年事業認可、昭和53年10月起工、昭和63年（1988）4月開通しました。

しかし築後20年後頃には3ルート建設に対するマスコミ批判が大きくなり、建設に関わった者として大変悔しい思いでした。

架橋の目的は経済効果と共に往来の危険除去や地理的障害の克服もあります。築後30年の調査では、四国の人口推移に好影響を与えているとの評価もありますが、コロナ禍の現在、特に経済面では厳しい状況だと考えます。更に歴史が進んで、多面的観点から評価されることを願っています。そして今後メンテナンスを一層重視した対応が望されます。

様々な面で活動自粛状況下ですが、蘇遙会会員の皆様のご健勝と学生諸君の将来の活躍を祈念致します。



昭和34年 国道3号川尻での軟弱地盤載荷試験作業
上段左から倉原 良民 氏、長友 秀実 氏（故人）、中原 郁夫 氏（故人）、
神毛 英一 氏（以上S35年卒）、下段右 園田 頼孝 先生（故人）

※土木系教室より、園田頼孝先生の著作本を差し上げます。詳しくは当誌10ページをご覧ください。

熊大生の誇り

土木工学科 昭和45年卒 藤芳 素生 氏



昭和45年に土木工学科を卒業しましたが、学生運動が激しい時代で3年生の後半から4年生の前半まで1年間学部は封鎖され、ほとんど専門の知識もなく卒業しました。浪人し翌年東京都立大の大学院に進み、初めて勉学の樂しみを経験しました。修了後、建設省（現国土交通省）に入り、河川畠を中心に全国で行政に携わりました。近畿地方整備局長を最後に退官ましたが、一貫して、「肥後もっこす（多勢に無勢でも弱い立場の人を頑なに擁護する。）」を胸に、反主流派と称し既存の制度、常識にとらわれない基軸を貫きました。退官後、日本河川協会を経て、建設コンサルタントの八千代エンジニアリング株式会社に勤務しています。熊大土木の卒業生も毎年のように入社し、社内同窓会も発足しましたが、最近はコロナのせいでしばらく開催出来ていません。先日、社内のゴルフの会で尾崎（H28卒）、高橋（H30卒）の二人の同窓生とご一緒し、お話しする機会がありました。若い方の中でも彼女たちの活躍に見ますと、ジェンダーフリーは既に過去の目標のようです。

平成21年に発足した工学部顧問会議に土木分野のメンバーとして6年間参加しました。工学部の中で土木分野では産学連携が如何に弱いか課題を突き付けられました。公共事業が中心の土木分野では産学官の連携こそ肝要で、その意味でも同窓会の役割（横連携）が求められる実感しました。土木の東京同窓会は山水会土木部会（工業会東京支部土木部会）・蘇遙会東京支部として、毎年開催されておりますが、私も及ばずながら8年ほど会長を仰せつかっていました。後輩の役に立ちたいとの願いで、出前講座を同窓会として立ち上げた思い出があります。どしどし出前を注文してください。同期の情報交換と先輩の経験伝承は同窓

会の基本的意義です。当時は若者の参加に腐心していましたが、最近は幹事も若返り参加者も回復し、本来の機能を發揮しています。

平成 17 年に始まった工学部「プロジェクト X」では、第 12 回（平成 18 年 8 月）に「水防災と河川環境（美しい日本を次世代に引き継ぐため）」と題し、自分の経験をお話しさせていただきました。現在、全国防災協会の副会長を仰せつかっています。701 年に公布された日本で初めての法律、大宝律令（養老律令）では、既に災害復旧を含む河川、道路、港湾の基本となる法律が既に制定されています。近年、第二次大戦前の現代の歴史さえ高校で教えられることがなくなりましたが、自分が関係している仕事、防災・災害復旧に関する歴史を紐解くと、いかに日本人が古から大陸から学びつつ日本の国土、風土を基に独自に世界観と道徳観を身につけ日本文化として熟成していったかが分かります。先人に思いを馳せ、今さらながら学ぶことの大切さを教えられます。熊大生の社会での役割と可能性を大いに期待しています。

記憶に残る経験 ～設計技術者として～

土木工学科 昭和 60 年卒 福岡 正秀 氏



私は、卒業後一貫して橋梁等土木構造物関連の設計コンサル業務に携わってきました。自分が設計した橋の完成後の姿を見る喜びは格別です。九州～東北の各地に自分の設計成果が点在していることに思いを馳せ、モチベーション維持のエネルギーにしています。

仕事上で最も記憶に残る経験は、ある公園内の運河を横断する人道橋の設計です。某一流大学の先生方をはじめ、世界的な建築家や都市計画プランナー、有名な照明デザイナー等と一緒にさせていただくという又とない貴重な機会でした。

「どんな提案をしようか」とやる気満々で臨んだのですが、冒頭に、アドバイザー側の建築系設計事務所から、独創的かつ奇妙な構造を一方的に

指示されてしまいました。それは「斬新なアイデア」と言えなくもなかったのですが、私の方で検証すればするほど、非合理的で施工困難な構造であることが判ってきました。始めのうちは立場上、控えめに問題点を指摘していたのですが、そのうち意見対立がエスカレートして…いくら公園内の人道橋とはいえ、供用後に問題の残る構造物を世に出すことは、設計技術者として看過できません。複数の橋梁専門技術者を巻き込みながら、根気強く先生方を説得することで、ようやく適切な構造に変更することができました。想像を絶する大変さでしたが、やり切った感は最高でした。

また、この説得の過程を整理し、トレードオフを意識した経験論文を作成することで、技術士資格（総合技術監理部門）の取得に繋げることができました。

熊大土木の後輩諸君、社会に出たら様々な苦難に直面することになると思いますが、諦めずに乗り越えたら、その経験は大きな感動とともに自分の大切な財産になります。精一杯頑張ってください。

その他、以前、土木系学生に対して経験談的な講演をさせていただき、多くの感想文を頂いたことが良い思い出になっています。

思い出の仕事

土木工学科 平成 2 年卒 益田 康一 氏
(E-tecs コンサルタント)

私は、平成 2 年に卒業後、オリエンタル建設（現オリエンタル白石）に入社しました。この会社はプレストレストコンクリート（P C）構造物（橋梁、建築）の施工会社でしたが、当時の自分は P C の知識が全くないまま入社しました。



した。入社から 4 年程で現場に出ることになり、2 現場ほど経験した後、平成 7 年から下関市豊北町にある「角島大橋」の現場に配属になりました。「角島大橋」といえば、今ではバスツアーが組まれるほどの観光地となりましたが、当時はリゾートホテルが 1 軒あるものの、海水浴シーズン以外は人

気のない小さな漁港の町でした。

角島大橋は、本土側豊北町と玄海灘沖にある角島を結ぶ橋長約 1.8 km の橋梁で、開通当時は無料で渡れる橋では日本一の長さでした。角島大橋は海上部に架橋するため、P C 橋部分は陸上で製作したプレキャスト部材を架設機（ガーダー）で架設する工法を用いていました。自分の担当は、橋脚上の「柱頭部」と言われる部分で、現場で鉄筋の組立やコンクリート打設を行う「現場打」と言われる工法でした。橋脚は海上にありますので、地元の漁船で移動して、一度、足場に上がると夕方まで帰れないこともあります。夏場は海がきれいで海風が気持ちよかったです、冬になると一変し、時化のため現場へ 2 週間も行けないこともあります。工程が大幅に遅れることから、途中から柱頭部もプレキャスト化し、大型起重機船で架設する工法となりました。

私は 2 年間で 15 基の柱頭部の施工に携わりましたが、数多くの失敗をし、協力会社の職員さんからよく怒られました。しかし、それ以上に色々な工夫やアイデアも考え、それは今現在でも役に立っています。角島大橋は開通後、観光地となり、車の T V C M でも流れるようになりました。それ



を見るたび、25 年たった今でも辛くも楽しかった現場での日々を思い出します。皆様も、ぜひ角島大橋にお越し下さい。

土木と CAD と私

環境システム工学科 平成 12 年卒
増田 敦彦 氏

最近は、出張ついでに土木遺産を巡ってます。先日は、土木学会デザイン賞で最優秀賞を受賞された山国川床上浸水対策特別緊急事業の現場を視てきました。耶馬渓の自然と調和した堤防整備と河道掘削が

印象に残りました。

土木と CAD と私について、少し書きます。

小林研にミニ卒研で仮配属された学部 3 年（24 年前）の私は、当時最新の 3 次元 CAD にハマりました。卒論では、3 次元 CAD を使った重力式ダムの工法検討の研究をしました。大学院に進み、修論では、3 次元地形を近景、中景、遠景で作り分けることや、加久藤トンネルの CG アニメーションを作成し考察しました。小林研での 3 年間は、技術も人脈も含め、現在の仕事の大きな礎となっています。

ゼネコンに就職してからは、現場事務所（兼宿舎）での生活でした。愛知、静岡、大阪、鳥取の現場で、測量に明け暮れました。土木の現場で必要な知識や経験は、この時期にしっかりと叩き込まれました。

システム開発会社では、GIS（地理情報システム）の開発をしました。GIS 上級技術者（GISA）の資格も取得しました。また、土木 CAD ソフトの翻訳、教材作成、操作指導などもおこないました。

2017 年に株式会社マカロンサーバイを立ち上げました。小林先生にお願いして、大学のインキュベーションラボラトリに居候しました。社員が 3 人になり、2021 年 6 月に安政町にオフィスを移転しました。弊社では、3 次元 CAD の講習やモデル作成、システム開発などをおこなっております。

一方、8 年目となる小林先生主催の「CIM チャンピオン養成講座」では、CAD 演習を担当しています。社会人向けリカレント教育で、BIM/CIM（Building Information Modeling / Civil Information Modeling/Management）に必要な知識を学ぶ講座です。興味がある方は、お問い合わせください。講座では、星野研の学生にアシスタントをお願いしています。彼ら彼女らは、きっと即戦力（チャンピオン）となり活躍できる、と期待しております。

末筆ながら、蘇遙会の皆様のご健康が守られますよう心よりお祈り申し上げます。

メールアドレスの登録と更新をお願いします
転居等の住所変更があってもご連絡が差し上げられます。



入学して四半世紀の振り返り

環境システム工学科 平成 12 年卒業
 自然科学研究科環境土木工学専攻 平成 14 年修了
 石原口 一人 氏

寄稿の依頼を受け、取るに足らない話題しか持ち合わせていませんが、蘇遙会活動への協力と旧知の皆様への近況報告も兼ねて、四半世紀前の学生当時から現在を振り返りたいと思います。

■蘇遙会・運動会

講義終了とともに蘇遙会活動への参加を呼び掛けにいらした先輩方のオーラに圧倒されましたが、もともとお祭りや勝負事が好きな気質もあり、最初は恐る恐るでしたが、特に運動会にもハマりました。写真は同期との騎馬戦後の写真です。



中央が小生・2年生当時

■研究室

大津先生にご指導いただき、コンクリートのひび割れ進展機構に関する研究を行いました。内容もさることながら、研究パートナーが留学生で、やり取りは下手くそな英語。多国籍な空間で学生時代の最後の 1 年間を過ごしました。実験を担当していただいた技術専門員の友田さんには随分迷惑をかけ、反省の意味も込めて一度頭も丸めました（その節はすみませんでした）。

■仕事

ゼネコンに就職して 20 年、特に印象深いのは、東日本大震災直後の被災した浄水場の復旧です。資材も乏しいなか、断水で困っている方のため必死でした。公共事業の在り方が問題視されて久しいですが、安心・安

全を守るという使命感にかられ、充実した日々でした。今より 10 歳若かったということもあり、前のめりに仕事していたかもしれません。

■同窓生

たまたま最寄り駅で同じ駐輪場を使っていた先輩や発注者との打合せに同席されていた先輩、いつか一緒に仕事をしようと誓いあった同期、良いタイミングで同窓生の方に活力をいただいている。年代や会社は別々ですが、熊大土木というだけで通じるものがあり、学生時代の蘇遙会活動が生きています。会うことがままならない状況ですが、あの頃に戻り、黒髪にいるような気分で楽しいお酒を飲みたいものです。

末筆ながら、蘇遙会および母校熊大の益々の発展と会員各位のご健勝をお祈り致します。

退任挨拶

大本 照憲

ご挨拶



私は、令和 3 年 3 月末日をもって熊本大学を定年退職し、現在、特任教授としてくもと水循環・減災研究教育センターに在籍しています。

1991 年（平成 3 年）4 月 1 日付けで九州大学から熊本大学に転任してから退職するまでの 30 年間、土木教室の教職員、卒業生および在校生の皆様には大変お世話になりました。

令和元年度と同様に、COVID-19 により卒科式はオンライン形式、謝恩会は中止となりましたが、最終講義はオンラインと対面の両者で令和 3 年 2 月 27 日に実施することが出来ました。令和 2 年 2 月から現在に至る間、海外出張はもとより、国内出張も出来ず、学会は全てオンライン会議となりました。授業も、期末試験は対面で対応しましたが、ほとんどはオンライン形式となり、学生の顔が見えないことから独り言を言っている様な感覚で、学生に内容が伝わっているかも分からず、消化不良のまま講義が終わった様に思います。

令和 3 年度は、非常勤講師として 6 月 21 日から始まった第二タームの河川工学を対面授業で実施しています。また、令和 2 年 7 月九州豪雨災害に対する文科省科学研究費特別促進費および土木学会水工学委員会調査団の研究発表を、各々、3 月 18 日および 5 月 6 日に終え、一段落したところです。

現在、国土交通省八代河川国道事務所の受託研究で、球磨川の治水安全度を高めることを目的に人吉市中川原公園改修案を検討しているところです。

退職に際して学生へのはなむけの言葉として、仕事の選択では、1. 好きな事、2. 自分が得意な事、3. 社会的需要のある事の 3 つの要素を掛け算したものが最大値となる職業を考えることをお勧めします。多くの学生は、何をやりたいか、何を得意とし、どの様な職種があるかも分からぬのが一般的です。そのため、自己研鑽に努め、自己分析を高め、試行錯誤を繰り返し、失敗を恐れず、何とかなるの気持ちで楽観的に行動を起こすのが良いと思います。個人的には、大学に残り九州大学 10 年間、熊本大学 30 年間の研究生活を送れたのはとても幸運でした。この間、恩師、先輩、後輩および研究室の学生に恵まれ、多くの方々にお世話になり、重ねてお礼申し上げます。皆様の活躍と幸福を祈念いたします。

定年退職に当たって～土木建築学科に～ 溝上 章志



2020 年度末に熊本大学を定年退職し、縁あって、白川下流の子飼橋を渡った川向こう左岸側の熊本学園大学経済学部リーガルエコノミクス学科の公共政策担当の専任教授に採用され、現在も教育・研究を継続しております。熊本学園大学に移って 3 ヶ月が経ちますが、平成 7 年 4 月に白川の上流の小磧橋を渡った川向こう左岸側の九州東海大学（現東海大学熊本キャンパス）から、下流右岸側の工学部土木環境工学科（当時）に赴任した当時に感じた「熊大の教育研究の環境は天国だ」という想いを再び感じています。熊大在職中は教

育に対する教員のエフォートを公平にするために、学部、大学院の年間の授業担当科目数は原則、それぞれ 2、1 科目、受講者数は多くても 70 人程度でした。私立文系の本学では、授業科目数は学部 4、大学院 2（とは言え、大学院生は経済学研究科全体で 1 学年 2、3 人なので、開講科目は実質 0 ですが）です。また、受講者数は 100 人を超える授業もあります。さらに、卒論は選択科目ですし、学生研という施設は存在しません。この 10 年ほど、熊本市の公共交通再生計画に対して、コミュニティバスの導入・維持基準や新しい補助制度の導入などの提言を行ってきましたが、それを評価し、採用していただいた熊本学園大学の期待に応えるよう、鋭意努力しているところです。

さて、熊大赴任当時を思い出します。私に与えられた部屋は、柱と壁の間に隙間があちこちにある 4 階建ての小さな工学部 8 号館の 3 階の東端でした。在職 26 年の間に、耐震改修された旧 1 号館、熊本地震後の工学部の空いた部屋（1 年間）、仮設プレハブ（2 年間）、そして新築成了新 1 号館と転々としながら、それでも大過なく熊大での教育研究生活を送ることができました。これもひとえに教職員、蘇遙会会員、現役学生諸君の支援のお陰であり、皆様には心より感謝しています。この間の研究室の卒業生は、学部生 108 名、博士前期 60 名、博士後期 8 (+D3 在席中 3) にも上ります。また、研究室の支部組織は東京を始めとして、関西、北海道、名古屋、福岡、宮崎、大分、鹿児島、熊本にあり、私が出張で当地を訪問する際は、「明日、学会でそっちに行くから、会場を予約してみんなを集めておいて」と無茶ぶりをしつつ、親しく卒業生との交流を続けてきました。また、2021 年 3 月 13 日（土）の最終講義では、1) 生まれてから博士課程修了まで、2) 熊大赴任までの教育・研究の経緯、3) 20 年周期の交通計画研究、4) 私の交通計画研究 第 1 期～第 3 期、5) 私のエネルギー源、6) 私の自慢と悔い、7) 私の今後を、名（迷）言と共にお話ししました。稚拙な内容でしたが、コロナ禍、対面で約 30 名、リモートでも 264 人もの方にご参加頂きました。本当に有難うございました。

最後になりましたが、熊本大学工学部土木建築学科土木系、大学院自然科学教育部、および蘇遙会の皆様の益々の発展を祈念して、退職に当たってのご挨拶とします。

故・園田頼孝先生の著作「肥後 熊本の土木」を差し上げます

2016年の熊本地震に伴う工学部1号館の改築により土木系教室は3回にわたり移転作業を行い、その都度教室に残る多くの資料や書籍を整理してきました。今回、園田先生の著作「肥後 熊本の土木」(昭和58年4月出版)が多数出てきました。先生の郷土・熊本への思いが込められている著作物ですので廃棄するには申し訳ないので、卒業生・現役生でご希望の方には無料で進呈致します。なお、部数は40冊のみです。



本著には、熊本を土木の分野（道路、河川、鉄道、港湾、空港、上下水道、水力発電、石拱、橋梁、熊本城ほか建築物）別に解説し、その歴史的価値や意義を論じたものです。付録には熊本日日新聞に連載された記事もあります。

○問い合わせ先

蘇遙会事務局（当情報誌表紙掲載の電話番号またはメールアドレス）あてご連絡ください。勝手ながら期限は令和3年11月30日まで先着順とさせていただきます。

◇物故者◇

2020年8月～2021年7月にご連絡があつた方を掲載しています。

卒年は蘇遙会正会員となった卒業年、()内は没年月。

■熊本高等工業学校

S18年卒 木下 秋登 様(2019.12)
S19年卒 溝口 安彦 様(2021.7)

S19年卒 平野 淳一 様(2018.10)

■熊本工業専門学校

S23年卒 馬場 順造 様(2020.12)
S23年卒 西澤 忠實 様(2019.12)

S23年卒 前田 慶之助 様(2020.11)
S24年卒 荒木 照之 様(2021.1)

S24年卒 陣内 陽一郎 様(2018)

S25年卒 松下 恭一 様(2020.12)

S26年卒 新庄 豊 様(不明)

■熊本大学工学部

S28年卒 平永 博 様(2020.9)
S34年卒 細田 信義 様(2021.7)

S30年卒 轟 昭 様(2019.9)

S34年卒 手柴 秀孝 様(2021.2)

S34年卒 木戸 貞男 様(2020.12)

S35年卒 金納 亨弘 様(2018.11)

S35年卒 西田 定義 様(2020.11)

S36年卒 井上 哲朗 様(2020.12)

S36年卒 米村 信幸 様(2021.1)

S34年卒 森光 傳 様(2020.6)

S48年卒 中村 寛三 様(2019.10)

H4年卒 内田 雅士 様(2019.2)

S48年卒 久保 哲夫 様(2020.9)

■旧職員

助手 田中 愛一郎 様(2020.8)

講師 竹間 弘 様(2019.2)

准教授 葛西 昭 様(2020.8)

皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます

◆都道府県別蘇遙会会員数 (登録自宅住所で分類)

2021年7月16日現在 物故者除く

北海道	5	滋賀県	7
青森県	1	京都府	23
岩手県	2	大阪府	82
宮城県	12	兵庫県	63
秋田県	0	奈良県	13
山形県	0	和歌山県	5
福島県	3	鳥取県	4
茨城県	17	島根県	8
栃木県	4	岡山県	10
群馬県	9	広島県	57
埼玉県	47	山口県	66
千葉県	88	徳島県	5
東京都	151	香川県	4
神奈川県	93	愛媛県	21
新潟県	4	高知県	5
富山県	0	福岡県	918
石川県	2	佐賀県	119
福井県	2	長崎県	178
山梨県	3	熊本県	838
長野県	1	大分県	234
岐阜県	6	宮崎県	151
静岡県	5	鹿児島県	150
愛知県	36	沖縄県	8
三重県	6	不明・その他	721
合計		4,187名	

教職員紹介

教員氏名（研究室名）	職名	近況
大谷 順 (地盤工学研究室)	教授	今年4月から研究・グローバル戦略担当理事・副学長に就任しました。一応2年間は工学部教授を併任しており、研究・教育も継続しています。
柿本 竜治 (地域公共政策研究室)	教授	ここ数年、災害続きでバタバタしていたら、あっという間に月日が過ぎ、気がついたら大学生活も残り10年を切ってしまいました。1年に1割ずつ荷物を減らそうと片づけ始めたら、その量の多さに絶句。
川越 保徳 (水質環境学研究室)	教授	コロナ禍に、老容赦なく降りかかり、何をするにも遅々と進まず(世の中)。この身には、老容赦なく降りかかり、何するにせよ遅々と進まず(かわごし)。以上、お粗末様でした。
重石 光弘 (環境材料工学研究室)	教授	3年前にドカッとまとまって博士後期課程の学生が研究室に入り、今年度でドカッと修了してしまって研究室もがんとなる予定。新型感染症のまん延が終息したらまた来てくれるでしょうかねえ?
辻本 剛三 (応用海岸研究室)	教授	昨年度からの土木系教室の長を継続しています。梅雨の時期に入り、この時期になると昭和28年6月の白川大水害が思い出され大雨や台風の発生が気になるシーズンの始まりです。備えあれば患ひないです。
松村 政秀 (構造力学研究室)	教授	コロナ期間が平常時より長くなっていますが熊大3年目、着任時に配属の4年生がようやく修士修了を迎えます。
椋木 俊文 (環境地盤工学研究室)	教授	土質実験にスポンジを使って圧密現象を画像解析したり、地盤の3Dデータを使って土圧や斜面安定の問題を考える内容を取り入れました。失敗部分は挑戦した証(笑)。今どきの学生が理解を深める授業を探求しています。
石田 桂 (河川環境研究室)	准教授	この一年、昨年の豪雨関連の研究・調査・裏方で多忙な日々を送っていました。各報告会・報告書の取り纏めを終え、やっとひと段落ついたところです。今年は厄年なので健康に気を使いつつ、研究を進めていきたいと思います。
尾上 幸造 (複合材料工学研究室)	准教授	昨年度で4年担任の役割を無事終えることができました。コロナ禍で最後に卒業生と飲めなかったことが非常に残念です。
金 淑列 (海洋海岸工学研究室)	准教授	今年度は、新たに実施するプロジェクトを成功させること、新たに研究室を立ち上げること、観葉植物を育てることを頑張りたいです。コロナ禍が収まり皆さんと一緒に一杯する時がくることを望んでいます。
才ノ木 敦士 (地下空間工学研究室)	准教授	今年度から地震によって被害を受けたトンネルに関する研究を始めました。今後予想される大地震に向け、地震時におけるトンネル被害の減少へ貢献できればと思います。
佐藤 晃 (深部地下環境工学研究室)	准教授	まだ出口がハッキリしないコロナ禍ですが、1年次の科目を担当していてどのような情報発信・授業形態が良いのか四苦八苦です。週末、風の匂いや鳥のさえずりに誘われて町中を徘徊するのが楽しみな今日この頃です。
竹内 裕希子 (地域防災学研究室)	准教授	「熊本大学学生災害復旧支援団体 熊助組」の顧問をしています。昨年7月豪雨では彼らの活動のために多くの寄付ありがとうございました。お陰様で活動が評価され、昨年度末に学長表彰と工学部西田誠賞を受賞いたしました。これからも「熊助組」をよろしくお願いします。
田中 尚人 (地域風土計画研究室)	准教授	熊大16年目になる今年、熊本地震から丸5年、東日本大震災からは丸10年を迎みました。依然としてcovid-19が猛威をふるっていますが、未来のために歩みを止めず、学んでいきたいと思います。
星野 裕司 (景観デザイン研究室)	准教授	教員室、研究室を1号館の西側へ引っ越しました。学生と物理的な距離が近くなっています、コミュニケーションが増えたような気がします。 これからも、学生と一緒に頑張っていきます。

2021 年度 熊本大学 蘇遙会情報誌

円山 琢也 (交通政策分析研究室)	准教授	溝上先生のご退職により旧溝上研のメンバーをお迎えし、学生 15 人の大所帯になりました。人数の多さを生かした研究室運営を模索中です。
皆川 朋子 (河川・流域デザイン研究室)	准教授	昨年の球磨川流域での大水害を踏まえ、熊本県では流域治水の取り組みが進められています。治水、健全な生態系、そして持続的な地域づくりが実現するよう、様々な視点からサポートできればと思っています。
安藤 宏恵 (地域公共政策研究室)	助教	今年の1月より熊本にやって参りました。はじめての九州での生活、食べ物や気候、言葉、文化など新鮮なことばかりです。日没の時間が遅いことには未だに慣れず、体感時間との差を感じています。
伊藤 紘晃 (水質環境学研究室)	助 教	昨年から段ボールコンポストを始めました。おかげで我が家のごみの排出量は激減しました。米ぬかがあるのとないのとでは微生物の活性が全然違つてることに驚いたりしています。
森山 仁志 (構造システム研究室)	助 教	熊大3年目となりました。最近は県内の温泉でリフレッシュするのが楽しみとなっています。今年も自然豊かな熊本を存分に楽しみたいと思います。

★藤見 俊夫 准教授は 2021 年 4 月に京都大学社会防災研究部門へ異動されました。

技術部 ・事務補佐員	友田 祐一	技術専門員	池田 郁子	松村研究室秘書
	外村 隆臣	技術専門職員	園山 恵	佐藤研究室秘書
	吉永 徹	技術専門職員	下田 万里	大谷、椋木研究室秘書
	佐藤 宇紘	技術専門職員	北園 聰子	柿本、皆川研究室秘書
	上田 誠	技術職員	小川 香名子	星野、円山研究室秘書
	橋本 淳弘	技術職員	片山 貴容子	金研究室秘書
	友田 桂子	土木建築工学科土木系事務室	森永 尚子	蘇遙会事務局

新任のごあいさつ

才ノ木 敦士 さいのき あつし (地下空間工学研究室)



盛夏の候、蘇遙会の皆様におかれましては、いよいよご活躍のこととお祝い申し上げます。この春、熊本大学・先端科学研究部（工）に准教授として着任しました才ノ木と申します。私は、北海道大学資源開発工学科で学士・修士を取得後に渡加し、2014 年にマギル大学鉱山学部から PhD を付与されました。その後、2017 年 1 月 1 日に熊本大学・国際先端科学技術研究機構のテニュアトラック准教授として着任し、メンター（指導教員）の尾原祐三先生、大谷順先生のご指導の下研究を進め、昨年度、無事にテニュア（終身雇用資格）を取得することができました。

熊本は阿蘇付近に莫大な地熱資源を有しており、2017 年に熊大に着任した当初から地熱開発に関する研究を進めています。昨今、テレビで何かと SDGs を目にする機会が増えましたが、日本で持続可能なエネルギー開発を実現するためには地熱は極めて重要な役割を果たすと信じています。私たちの子孫が幸せに暮らしていく世界を実現するために、熊本で資源エネルギー開発に関する研究に邁進していく所存でございます。まだまだ至らぬ点があるかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

金 淑列 きむ すーよる（海洋海岸工学研究室）



蘇遙会の皆様、はじめまして。令和2年10月1日付けで熊本大学「まもと水循環・減災研究教育センター（減災型社会システム部門）」の准教授として着任した金 淑列（キム スーヨル）と申します。

私は、2007年5月京都大学大学院で博士（工学）の学位を取り、1年間防災研究所で学術研究員を務めた後、鳥取大学社会システム工学科に助教として着任しました。修士課程では河川工学の数値解析を身に付け、博士課程では海岸工学で「高潮・波浪・潮位結合数値モデル」を開発して、モデル一式を一般公開し、国外・内の共同研究者と一緒に SuWAT の精度改良、応用、改良を行なっています。鳥取大学からは、AI を使った高潮や波浪予測に関する研究も行なっています。

最近では、「気候変動が高潮に及ぼす影響評価の研究」、「越流、打上げ・越波、降雨と下水道の逆流、河川の越流の複合要因による浸水災害推算モデルの開発」、「河川の土砂供給、土砂量の沖合への損失、沿岸向きへの移動の複合要因による海岸変形推定数値モデルの開発」を実施しています。

これから蘇遙会の発展に貢献したいと思いますので、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

安藤 宏恵 あんどう ひろえ（地域公共政策研究室）



令和3年1月1日付けでまもと水循環・減災研究教育センター（地域デザイン部門）の助教に着任いたしました安藤宏恵と申します。令和2年3月に岐阜大学工学部生産開発システム工学専攻において博士（工学）の学位を取得した後、東京工業大学環境・社会理工学院研究員を経て、本学科に着任いたしました。

専門分野は交通工学・防災計画を主としており、津波災害を対象として最適避難行動のモデル化や頑健な道路ネットワーク構築のための研究を行なっています。近年、熊本では平成28年の熊本地震、令和2年の人吉豪雨災害など大規模な災害が頻発しており、事前事後の防災対策や災害に強い街づくりの整備は急務といえます。熊本県の地域特性に応じた、災害に強いインフラシステムの整備に向けて研究を進めていきたいと思っております。

浅学菲才で未熟な身ではございますが、本学および地域発展に貢献できるよう精一杯努力してまいりますので、蘇遙会の皆様方にはご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。Covid-19 が収束した折には、蘇遙会の皆様にお会いできる機会を楽しみにしております。

※2021年8月より 張 浩（ちょう こう）先生が赴任されますが、ご紹介が間に合わないため、次号に掲載いたします。

会費納入のお願い～先輩から後輩へ応援のエールを～

蘇遙会は在学生への支援として、蘇遙会の会費収入より蘇遙会学生部活動費を拠出しており、それを受けた学生部は新入生歓迎会などの懇親会の開催、運動会、紫熊祭（大学祭）への参加などの活動を行なっています。他県から親元を離れて進学してきた学生や、なかなか大学になじめない学生などの不安を払拭し、仲間意識を強め、ひいては学業や日常生活に前向きになれるような活動に力を入れています。皆様のご理解とご協力をいただき、後輩である在学生たちに多くのご支援を賜りたく、会費の納入をお願いする次第です。

蘇遙会事務局の活動日変更のおしらせ

2021年8月より、蘇遙会事務局の活動日を毎週水曜・金曜日の10時～16時に変更します。但し、国民の祝日や熊本大学の夏季・冬季休業日、その他都合によりお休みをいただくこともありますのでご了承ください。

研究室配属人数および学部学生数(1~3年) (2021年5月6日現在、休学、10月入学生、社会人ドクターを含む)

研究室(担当教員)	学部4年	修士1年	修士2年	博士1年	博士2年	博士3年	研究員・他	合計
地盤工学研究室 (大谷)	4		2	1				7
地域公共政策研究室 (柿本、安藤)	6	1	2			4		13
環境材料工学研究室 (重石)	4	1	1			3	3	12
応用海岸研究室 (辻本)	4	2	1		1			8
環境地盤工学研究室 (棕木)	4	4	1	1	1			11
複合材料工学研究室 (尾上)	5	1	3	1		1		11
地下空間工学研究室 (才ノ木)	4	1					3	8
深部地下環境工学研究室 (佐藤)	5	4	1				3	13
地域防災研究室 (竹内)	5	2	2				1	10
河川・流域デザイン研究室 (皆川)	5	3	3	1	1	1	3	17
地域風土計画研究室 (田中)	5	4	7		1	1		18
水質環境学研究室 (川越、伊藤)	6	8	4			1		19
構造システム研究室 (松村、森山)	6	8	4	1				19
水文研究室 (石田)	4	2	2			1		9
海洋海岸工学研究室 (金)	4			1			1	6
景観デザイン研究室 (星野)	5	2	6		1		1	15
海洋海岸工学研究室 (円山)	5	4	5			3	1	18
合計	81	47	44	6	5	15	16	214

学部生 1~3年	1年 土木建築学科(コース選択前)	128	1年生は土木建築学科入学生の総数です。2年生進級時に「土木工学」、「地域デザイン」、「建築学」の3つのプログラムにコースが分かれます。蘇遙会は「土木系」として、「土木工学プログラム」および「地域デザインプログラム」の学生を対象とします。 改組前入学の一部の学部4年生は社会環境工学科卒業となります。
	2年 土木建築学科土木工学プログラム	39	
	2年 土木建築学科地域デザインプログラム	24	
	3年 土木建築学科土木工学プログラム	49	
	3年 土木建築学科地域デザインプログラム	21	
	卒研未着手	10	

◆令和3年3月 学部卒業生進路【順不同】

国土交通省九州地方整備局、京都府庁、大分県、長崎県、熊本県、東京都、北九州市、福岡市、熊本市、東急建設㈱、鹿島道路㈱、大成建設㈱、前田建設工業㈱、清水建設㈱、日本管財㈱、三井共同建設コンサルタント㈱、㈱東京建設コンサルタント、㈱第一技術コンサルタント、㈱オオバ、高田機工㈱、日本IBM㈱、㈱PALTEK、㈱九電工、西部ガスエネルギー㈱、西日本高速道路㈱、関西エアポート㈱、熊本大学大学院自然科学教育部博士前期課程、大阪大学大学院工学研究科博士前期課程、東京大学工学系研究科博士前期課程、九州大学大学院工学府、東京大学大学院総合文化研究科修士課程、帰国・その他

◆令和3年3月 大学院(前期・後期)卒業生進路【順不同】

内閣府、国立大学法人熊本大学、徳山工業高等専門学校、アジア航測㈱、その他復建調査設計㈱、㈱真和コンサルタント、㈱オリエンタルコンサルタント、㈱オオバ、日本工営㈱、㈱東京建設コンサルタント、九州電力㈱、西日本高速道路㈱、熊本大学大学院自然科学教育部博士後期課程、その他㈱不動テラ、大成建設㈱、清水建設㈱、ショーボンド建設㈱、㈱大林組、三井住友建設㈱、東亜建設工業㈱、㈱日水コン、㈱福山コンサルタント、日本工営㈱、㈱建設技術研究所、八千代エンジニアリング㈱、パシフィックコンサルタント㈱、中央コンサルタント㈱、㈱横河ブリッジホールディングス、日鉄鉱業㈱、宇部興産㈱、九州旅客鉄道㈱、熊本大学大学院自然科学教育部博士後期課程

蘇遙会学生部

2021年度学生部コンセプト「紡ぐ」

3年 学生部部長 藤田 知大

今年度の学生部のコンセプトとして「紡ぐ」という言葉を選びました。コロナ禍の学生生活において、学科内のつながりが薄くなっているように感じます。特にコロナ禍で入学した下級生にとってはそのつながりが見えづらくなっているように感じます。糸を紡ぐように、学科での同級生、先輩・後輩の縁を再構築したいという願いを込めました。

今年度もコロナ禍の状況にあって例年のように活動ができるか不安ですが、できるだけイベントを実施していきたいと思います。厳しい状況にあっても、学科を盛り上げていくために、十分な感染対策や ZOOMなどのオンラインツールの活用など様々な方策をとり、活動の実施に努力していきたいと考えています。

1,2年生歓迎会実施報告

学部3年 学生部広報 吉田 陸

学生部は、新型コロナウイルスの影響により2020年度は主だった活動をすることができませんでした。現役員の3年生達は1年生時に活動に参加することはできていましたが、現2年生からはまだ一度も活動に参加できていませんでした。このままでは先輩方の創ってきた蘇遙会が途切れてしまうと考え、今年度はできるだけ活動を行い、蘇遙会を知ってもらいたいと、新型コロナウイルスの感染対策を踏まえたうえで計画を行い、新入生歓迎会を実施しました。今回の新入生歓迎会はコロナ禍での実施という前例のないイベントのため、先輩方の知恵を



お借りしながら一から計画を練りました。去年、新入生歓迎会を実施できなかったため、今年土木工学プログラムと地域デザインプログラムに進んだ2年生にも歓迎会をしようと考えました。例年は、河川敷に集まり新入生歓迎



BBQをしていましたが、今年は大人数での開催ができないため、全体を20班の少人数の班に分け、2日間、全4部にわたって新入生歓迎会を行いました。約100人にのぼる1,2年生の参加があり嬉しかったです。

活動内容については、それぞれがやりたいことを楽しんでもらうために班ごとに委ねました。ある班では、子飼商店街から上通りのほうへ散歩し、お弁当をテイクアウトして白川公園で食事しながら交流を深めました。また、他には、坪井川公園でお弁当を食べた班や、河川敷沿いでサッカーをして交流した班、熊本城やサクラマチまで歩いて街中の紹介をして楽しんだ班もありました。

今回の新入生歓迎会が対面で実施できたことで、新入生に蘇遙会を知ってもらうことができ、これからまた参加してもらえるような先輩と後輩のつながりを持てたと感じました。蘇遙会という組織がどんな活動をしているか、あまり知らない新入生も多くいたので、活動を通して蘇遙会について話すことができてよかったです。また、新入生同士も会う機会がほとんどなかったそうなので、今回の活動を通して、縦のつながりだけでなく横のつながりも広がったように感じました。



【歓迎会に参加した1,2年生の感想】

- ・他サークルの活動が無く先輩との交流がない状況でしたが、土木建築の話を聞けて良かったです。（1年男子）
- ・先輩方が優しくて楽しく話せ、同期の友達も増えて楽しかったです。（1年男子）
- ・友達が増えました、とても楽しかったです！（1年男子）
- ・先輩方と知り合うきっかけができたのでとても良かったです。同学年の人とも仲良くなれておしゃべりできたので楽しかったです。（1年女子）
- ・先輩の話とか授業の話とか聞けてすごく楽しかったです。2年生のつながりもできたので良かったです。（2年男子）
- ・色々な話ができるとても楽しかったので、また蘇遙会の企画に参加したいです！（2年男子）

コロナ禍でのひどこと

学生にコロナ禍の日常について率直な思いを聞いてみました！
(学年は全て学部)

- 勉強面は、オンデマンドの授業が少なくなってzoomのオンライン授業が増えたので、曜日感覚がだいぶ戻ってきたように感じました。日常生活は、バイトにあまり入れなくて家にいることが多かったので、鶏肉を大量に仕入れて下味冷凍するのにハマってました。YouTubeを見るとも増えて、スケボーを最近始めたので、晴れの日は河川敷で練習します。(3年 YR)
- オンライン授業で自分のやりたい勉強が見つかったので良かったです！ 単位ほしいです！(3年 キューピー)
- 授業の直前まで寝ることができた！(3年 花火大会行きたい)
- いくつか対面の授業が始まって、やっと同じコースの人の名前と顔が一致し始めた。(3年 しんちゃん)
- 家にいる時間が増えて、これまで全く見てこなかったアニメを見るようになりました！先日ヒロアカを一気見し終わり、今は幽遊白書にハマっています！(3年 みなみ)
- 自粛生活でモチベーションを保つのが難しかった。(3年 えなりかずき)
- 授業に対するモチベーションが上がらなかった。(3年 竹市の先輩)
- おうちにいる時間が増えたので、家の中を楽しくしようと思って、気づいたらインテリアをたくさん購入していました。おうちが可愛くなっておうち時間も充実しています。(3年 ブルーハワイ)
- 対面が増えて友達増えて嬉しい。(3年 <まさん>)
- 私は陸上部に入っています。コロナも落ち着き、6月末から再開しました。それと同時に就活の準備も始まりました。忙しい日々が続きますが、毎日が充実して楽しいです。やっぱり大学生は忙しいくらいが丁度いい！(3年 ハマス・ロドリゲス)
- コーヒーをいれることが趣味になりました。自分のおすすめのコーヒー豆は、KALDIのフルーティーコンゴです！(3年 にんじんのシャーベン)

- もうすっかり料理系男子になっちゃって自分に足りないものが何も無くなってしまいました。今まででは顔だけだったけどコロナ禍で完璧な人間になれたことに達成感を感じています。(3年 ミスターコン出たら1位確チャン男)
- 課外活動の制限、時短営業等でアルバイトもできず生活も困窮している今の熊大生は、1日中家から出ない日続いている状況です。特に、実験や演習などの授業が実際に出来ないというのは非常に残念に思うし、リスクレベルが下がり、しっかりと対策をとって対面授業や課外活動を始めているたくさんの他の教育機関がある中、柔軟性が低いと感じます。人との繋がりを作る機会を制限される生活では学ぶ意欲も低くなると思います。(3年 よーまん)
- コロナ禍で気付いたらテレビに出てて気付いたら女の子にモテモテでした。(3年 大逆転の西)
- リモート授業で高い集中力を持って取り組むことが出来ずに授業に置いて行かれることがどうしても起こり、自分の学力に不安を持っている。(2年 豪炎寺)
- 飲食店の営業時短があり、外食をすることが難しかった。(2年 シュワちゃん)
- 人と関わることが減ったせいか、あらゆる物事に対するやる気がなくなった。一人でできる趣味に時間を割けるようになったのが不幸中の幸いかと思う。(2年 sm)
- 授業を1人で受けて、勉強も基本的に1人ですることが多いので自分がどのくらい出来ているのか不安になる。(2年 替え玉バリカタ)
- パソコンの使い方が上手くなったことはオンライン授業の唯一のメリットなのかもしれない。(2年 趣味洗濯)
- コロナの影響で学科の友達や先輩とコミュニケーションをとる機会が少なく、勉強面を中心にやりづらいことがある(2年 いそべの後輩)

【編集後記】昨年度は紫熊祭、工学部運動会などが中止となり、情報誌の記事も内容が薄くなるかと心配しましたが、多くの卒業生の方からご寄稿いただき、充実した紙面となりました。ありがとうございます。今年も多くの自然災害が発生しています。各地の被災者の皆様へお見舞い申し上げます。また、一日も早い新型コロナ感染症の収束を祈念します。皆様くれぐれもご自愛ください。(森永)